ぴかいち

人、物、技、場所などを選び出して紹介するコーナー「ぴかいち」

コピーライト©ko

世界チャンピオンの称号を手に入れるため、激しく打ち合う藤岡選手と山口選手

輝く未来を拳に込めて！

ボクシングWBA女子世界スーパーフライ級チャンピオン 藤岡奈穂子 選手

平成二十五年十一月十三日、ボクシングのメッカ後楽園ホールでボクシングの歴史に新たな伝説が刻まれました。

この日に開催されたWBA女子世界スーパーフライ級タイトルマッチ。当時のチャンピオン山口直子選手に、大崎市出身の藤岡奈穂子選手が、WBC女子世界ミニフライ級チャンピオンの座を返上して挑戦し、死闘の末、新チャンピオンの座に輝きました。

これは、日本人女子初の二階級制覇で、自身が持つ国内最年長王座奪取記録を更新する結果となり、ボクシング関係者からは「今後、百年間破られることのない記録だろう」と称えられています。

三階級（約四・五キロ）上げての挑戦は、自分よりも二まわり以上大きな体格の選手と戦うことを意味する相当不利な条件です。この三階級の差を埋めるため、筋肉を増やす過酷なトレーニングを積んでの挑戦でした。

KO率九割を誇るハードパンチャー山口選手との試合は激しい打ち合いとなりましたが、藤岡選手は持ち前のスピードを生かした攻撃で、三ラウンドに右ストレートからの左フックでダウンを奪いました。これまで顔面に強烈なパンチを受けたことのない藤岡選手が、左耳の鼓膜を破り鼻血を流しながらも果敢に攻め続け、三対〇の判定で見事に王座を勝ち取りました。

世界チャンピオンになることがゴールと考えた時期もありましたが、東日本大震災をきっかけに、自身が地元の夢と希望を背負っていることをモチベーションとして、三十八歳になった今もなお挑戦し続け「これからも強い選手と拳を交えたい」とあくまでも強者との対戦にこだわる藤岡選手。今後は、春にアルゼンチンで開催予定の同級暫定王者ダニエラ・ベルムデス選手との防衛戦、そして三階級制覇に目標を定めます。

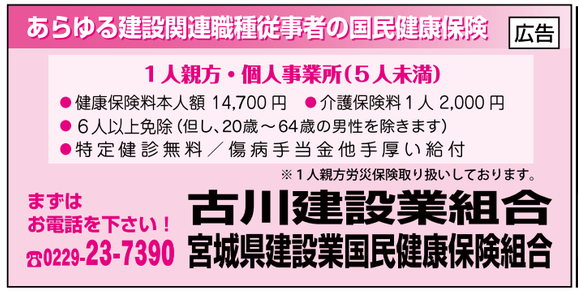
「いつも応援していただきありがとうございます。皆さんからの声援を励みにこれからも頑張ります」と感謝の気持ちを忘れない藤岡選手。皆さんからの声援を糧に藤岡選手は、これからも故郷を思い戦い続けます。

⑪

③

②

コピーライト©ko ⑤

コピーライト©ko ④

①偉業を成し遂げた藤岡選手に祝意を表すため、市役所3階に掲げられた横断幕② 12月8日、地元に凱旋しての祝勝会では、所属ジムの竹原会長とオープンカーで入場し祝福を受けます③ 12月9日、市長への凱旋報告会では、さわやかな笑顔を見せてくれました④両者、必死に打ち合い、強烈なパンチを入れる藤岡選手⑤死闘を制したリング上で、チャンピオンベルトを巻き付け、甥っ子と喜びを分かち合います